

# お塔婆

(卒塔婆)



# お塔婆とうばのはじまり

仏教が誕生したインドでは、お釈迦さまのご遺骨を納めたドーム形の塔を「ストゥーパストウパー（卒そ塔婆とうば）」と言います。お釈迦さまがお亡くなりになった後に、お釈迦さまを慕したう人々がこの塔の前に集まり、供養し礼拝らいはいしました。

このような仏塔を建立こんりゅうするには、多くの資財が必要でしたが、お釈迦さまを慕したう人々の尽力によって、インド各地に仏塔が建てられました。

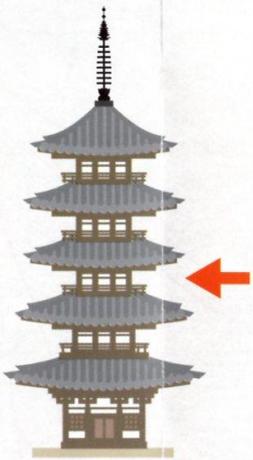
仏塔は人々の信仰のよりどころとなり、いつしか仏塔そのものがお釈迦さまだと考えられるようになりました。

その後、仏塔は中国や日本へ伝わると、三重塔・五重塔などの形状に変化していき、様々な塔が建立されるようになりました。

特に真言宗では、五輪塔が考案され、今日こんにちでは、板で形作られた平面のお塔婆が普及したのです。



ストゥーパ



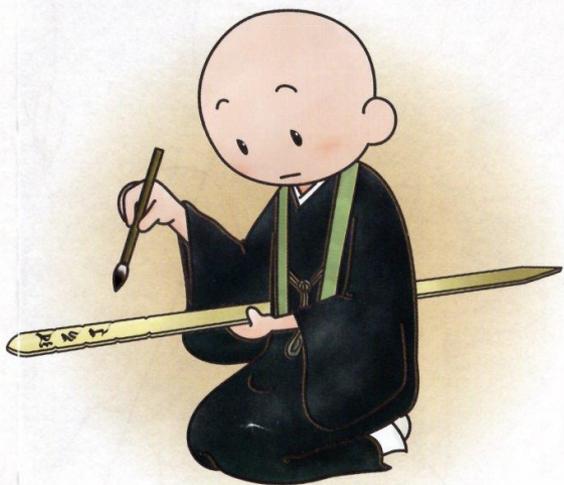
五重塔



五輪塔



塔婆



## 仏さまを生み出す

お塔婆を見ると見慣れない文字が書いてありますが、その文字は大日如来さまをあらわす梵字ほんじです。つまり、お塔婆を建立することは、仏さまを生み出すのと同じ功德くどくがあるのです。

しかし、梵字を書いただけでは、お塔婆は仏さまになりません。「仏作たましって、魂入れず」にならないよう、ご法事などの法要で、僧侶がお塔婆へ魂を迎え入れることが大切なのです。

ご先祖さまのお戒名を記したお塔婆をお墓に建立した施主は、無量の福德を積むこととなります。亡き人のご恩に報い、感謝の心を持つことが、追善ついでん供養くやうの姿なのです。

亡き家族、ご先祖さまが仏さまの国で安らかに過ごせるように、そして今を生きる私たちを見守っていただくために、お塔婆を建立しましょう。



- お塔婆は仏さまです。大切に扱いましょう。
- お塔婆を建立される方は菩提寺にお願いしましょう。

福徳は仏塔を建て、仏像を造るをもつて要とす。  
三世の諸仏、十方の薩埵、みなこの福智を嘗みて仏果を円満す。

『性霊集』「勸進して仏塔を造り奉る知識の書」 弘法大師 著

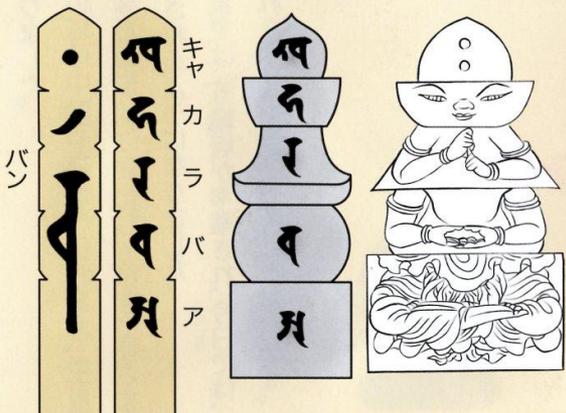
弘法大師空海さまは、塔や仏さまを造り出すことで、「福徳」を得ることができると説いています。この「福徳」とは、善き行いによって得ることが出来る幸せのことです。

すべての仏さまは「福徳」を積み重ねたことで、仏さまになることができたのです。

ですから、法事やお施餓鬼でお塔婆を建立したことは、仏さまと同じように「福徳」を積み重ねたことになるのです。さらに「福徳」は、あなた一人が得た幸せではありません。周りの人や亡くなった人へも行き届いているのです。

良いことも、辛いことも、独り占めせずに分け合えばいいのです。喜びは倍になり、辛さは半分になるのですから。

## お塔婆の文字の意味



真言宗では、大日如来さまを模した「五輪塔」を大切にしています。この立体的な五輪塔を、平面にしたのがお塔婆です。

お塔婆の片面に、この世の一切の存在を構成している五大（空風火水地）の梵字「キヤ・カラ・バ・ア」を書くことで、胎蔵界の大日如来さまをあらわします。もう一方の面に「パン」の梵字を書くことで、金剛界の大日如来さまをあらわします。

これらの梵字は、大日如来さまの真言でもあるのです。梵字の下に、お戒名が書かれているのは、故人が大日如来さまに抱かれていることを示しています。

ほとけのこころ ③

お塔婆 (卒塔婆)

ハ  
ダ  
シ  
バ  
ア